



# 母乳育児支援通信

～「赤ちゃんにやさしい病院」をめざして～



母乳には、皆様もご存じのとおり、赤ちゃんにとって大事な栄養素がいっぱい含まれています。でも、母乳の良いところは栄養素だけではないということをみなさんにお伝えしたいのです。

第 3 号に「もっと知りたい母乳のパワー！」と題して「母乳とくすり」の前半を掲載いたしました。第 4 号では、後半の「くすりと授乳」について取り上げます。

また、今回は普段、疑問に思っていることにお答えする『母乳育児』一問一答のお薬欄をパワーアップして掲載いたしましたので御覧ください。

まず・・・

## 母乳中に移行しやすいくすりとは??

くすりが投与された後、経口薬の場合主に消化管から体内へ吸収され、肝臓を通過して代謝され、血液によって全身へ運ばれます。この血液にのったくすりの一部が、母乳へと移行します。

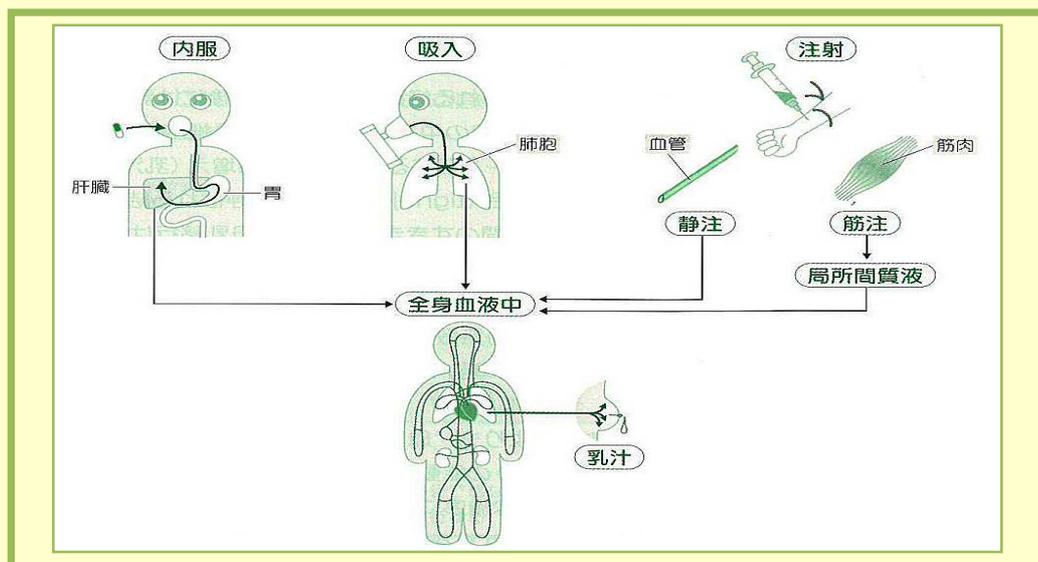


図 1 : くすりの経路

(水野克己著：「母乳とくすり」, p. 71, 南山堂, 2011) (使用許可許諾済み)

母乳中へ移行しやすいくすりには特徴があります。特徴としてはくすり側の要因と、赤ちゃん側の要因に分かれます。

母乳中に移行しやすいくすりの特徴・・・

① くすり側の因子

- 分子量が小さい
- タンパク結合率が小さい
- 脂溶性
- pHが高い
- 半減期（血液中のくすりの濃度が半分に低下するのに必要な時間）が長い
- M/P 比（母乳中濃度/母体血液濃度比→くすりの母乳中への移行のしやすさを表した数値）が大きい

② 赤ちゃん側の因子

- くすりの母乳中の濃度が高い
- 赤ちゃんの母乳摂取量が多い
- お母さんのくすりの吸収率が大きい
- 赤ちゃんのくすりの代謝・排泄能力が低い

このような特徴のくすりでも、授乳中のお母さんが使用しても赤ちゃんに影響が出るほど母乳に移りません。

これらの情報は、くすりの添付文書の記載情報から推測することもできます。

詳細は「母乳育児支援を進めるチーム」構成員の薬剤師に御相談ください。



## 授乳を中断・中止しなければいけないくすりとは？

ほとんどのくすりは母乳中に分泌され、赤ちゃんが飲みます。

しかし、「母乳中にくすりが移行する」ことではなく、「母乳中のくすりにより赤ちゃんに有害な影響が起こるのか」を中止の判断基準にするべきです。

ここでは、赤ちゃんに影響が出てしまうくすりを紹介します。

### ◆ HIV 感染症の治療に使用されるくすり

お母さんが HIV 陽性の場合、母乳を与えることで赤ちゃんが HIV に感染する危険性があるため、安全に人工乳を使うことができる地域（国）では、母子感染予防の点から原則的には母乳栄養は避けるべきと言われているため、内服しながら授乳というのは一般的ではありません。

### ◆ 抗がん剤

児に免疫抑制の可能性や発がん性に対する影響の可能性があるため授乳は原則禁忌ですが、半減期の短いくすりでは一定時間を経過すれば授乳ができる場合もあります。

### ◆ ヨウ素製剤（ヨウ化カリウム丸<sup>®</sup>等）

母乳への移行も高い上、赤ちゃんの半減期は成人より長いため、授乳は一時中断した方が良いでしょう。

### ◆ 放射性医薬品

赤ちゃんが被ばくしてしまうので、効果がなくなるまで中止してください。

上記以外のくすりでも避けた方が良いものもありますが、使用できるくすりがほとんどです。母乳育児を希望しているお母さんのためにも『服用しながら母乳育児を行えるくすり』を選択し、支援していける環境を作ることが重要です。



## 『母乳育児』 一問一答（お薬編）

## ① Q：風邪のときは・・・

授乳中なのですが、風邪を引いてしまい、病院でくすりを処方されました。母乳にくすりが出るのが心配でまだ飲んでいません。「風邪を引いておっぱいをあげていると子どもに風邪がうつるから、やめた方がいい」と聞いたこともあります。

ミルクを哺乳瓶で飲ませようとしたのですが、赤ちゃんはこれまで母乳しか飲んだことがないので、嫌がって飲んでくれません。どうしたら良いのでしょうか？

A：

多くのくすりは母乳中に移行しますが、その量はごくわずかなので、赤ちゃんが母乳を飲んででもくすりの影響を受けないことが多いです。

ただし、風邪でよく処方される「PL 顆粒<sup>®</sup>」「SG 顆粒<sup>®</sup>」にはカフェインが含まれています。カフェインは成人では半減期が約 3.5 時間ですが、児では約 80 時間に延長します。カフェイン蓄積により、興奮や不眠などが児で起こってしまうため、授乳は避けた方がいいと思われれます。

また、『1 日 1 回のくすり＝血液中に長く残るくすり』なので、気になる場合は避けた方がよいです。

子どもにも使われるようなくすり（アスピリン<sup>®</sup>、ムコダイン<sup>®</sup>、カロナール<sup>®</sup>など）を処方してもらうと母乳中に移行しても安全です。

また、母乳中には風邪のウィルスは移行しませんが、母乳にはお母さんがかかった風邪に対する抗体が移行するため、赤ちゃんを守ってくれる可能性があります。

## ② Q：花粉症のときは・・・

花粉症がひどくて、妊娠前はいくすりを服用していました。母乳で育てたいのですが、くすりは飲まない方が良いですか？

A：

花粉症のくすりには内服薬・点鼻薬・点眼薬があります。花粉症の点鼻薬・点眼薬は局所的に作用するものがほとんどですし、血液中に移行しても少量のため、母乳への影響は少ないと考えられます。

内服の場合は注意が必要なものもあります。抗ヒスタミン薬では、お母さんだけでなく赤ちゃんにも眠気を催すものもあるため、眠気の比較的少ない第 2 世代（アレジオン<sup>®</sup>、アレグラ<sup>®</sup>など）や抗アレルギー薬（オノン<sup>®</sup>、シングレア<sup>®</sup>）を選択されるとよいと思われれます。

## ③ Q：片頭痛のときは・・・

昔から片頭痛があります。授乳中は我慢しようと思っていましたが、とても辛くなっています。授乳は続けたいのですが、どうしたら良いのでしょうか？

A：

片頭痛では、トリプタン製剤、NSAIDs（ロキソニン<sup>®</sup>など）、アセトアミノフェン（カロナール<sup>®</sup>）、エルゴタミン製剤が使用されます。中でもトリプタン製剤のイミグラン<sup>®</sup>は脂溶性が低く、半減期も短いいため比較的安全に使用できると言われています。どうしても気になる場合、半減期は 2.2 時間なので、授乳を少しあければさらに心配は減るでしょう。カロナール<sup>®</sup>も安全に使用できる薬剤です。

しかし、エルゴタミン製剤（ジヒデルゴット<sup>®</sup>、クリアミン<sup>®</sup>など）は母乳の分泌を減らしてしまうため、避けた方がいいでしょう。

## ④ Q:便秘のときは・・・

産後、便秘で悩んでいます。便秘のくすりを飲むことで、赤ちゃんが下痢をしないか心配です。

A:

酸化マグネシウム<sup>®</sup>やラキソベロン<sup>®</sup>は吸収がされにくく、赤ちゃんにも使用する薬剤のため授乳時にも安全に使用できる薬剤です。

プルゼニド<sup>®</sup>、アローゼン<sup>®</sup>は、以前は授乳すると赤ちゃんに下痢が起こる可能性があるため、授乳中の女性には禁忌と考えられていましたが、現在はその可能性がきわめて低いことが報告されています。念のためお母さんが服用する場合は、赤ちゃんの軟便に注意してください。

## ⑤ Q:下痢のときは・・・

上の子が保育園で嘔吐下痢症になってしまい、私も同じような症状が出て困っています。幸い吐くのは治まっているのですが、下痢のくすりは飲めますか？

A:

まずラックビー<sup>®</sup>やミヤ BM<sup>®</sup>などの整腸剤を服用してはいかがでしょうか。これはお腹の中の環境を整える乳酸菌で、母乳中に移行しませんし、赤ちゃんも飲むくすりなので授乳中でも服用できます。下痢止めとしてはタンニン酸アルブミン<sup>®</sup>など使用できるくすりがあります。脱水にならないように水分はこまめにとるようにしましょう

## Q:インフルエンザのときは・・・

インフルエンザにかかったようです。高熱が出ているのですが、授乳を続けても大丈夫でしょうか？また、抗インフルエンザ薬は使っても良いのでしょうか？

A:

インフルエンザは、つば、しぶき等による飛沫感染で起こるので、母乳を通して感染することはありません。それよりもお母さんがマスクをし、いつもより手洗いを十分に行うことが重要になります。

インフルエンザの薬剤は、タミフル<sup>®</sup>、リレンザ<sup>®</sup>、イナビル<sup>®</sup>があります。

タミフル<sup>®</sup>の場合、お母さんが内服した量の 0.5%程度が母乳に入り、赤ちゃんが摂取すると考えられますが、この量は赤ちゃんに影響がある量ではないため服薬しても問題ないと考えられます。また、リレンザ<sup>®</sup>、イナビル<sup>®</sup>は吸入薬のため、タミフル<sup>®</sup>よりも母乳に移行する量はもっと少なくなります。心配なら、おくすりを使用してから 2 時間以上あけて授乳するといわれると思います。

## 参考文献:

- 1 水野克己著:「母乳とくすり -あなたの疑問解決します-」 南山堂 2011
- 2 編集 伊藤真也, 村島温子「薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳」 南山堂 2011

文責: 薬剤部本院薬剤室薬剤師 鈴木さとみ

「母乳育児」一問一答

このコーナーでは、「母乳育児」に関する皆様のギモンにズバリ回答したいと思います。

今回とりあげるのは、こちら！

- ① 赤ちゃんに「母乳」をいつまでも続けるとむし歯になりやすいと聞きますが、早めに断乳したほうがいいのでしょうか？ 長く続けると「甘えぐせ」がついちゃうって聞いたけど？
- ② 母乳は虫歯の原因にはなりません。虫歯は虫歯菌が食べ物、飲み物の糖（主にショ糖）とくっつき酸を発生し、歯をとかしておこります。母乳の糖分は乳糖、オリゴ糖でこれらは、虫歯菌とくっついて酸は発生しません。おっぱいは赤ちゃんがいらないうまで飲ませるのが基本で、断乳ではなく、自然に飲まなくなる卒乳が理想です。母乳を長くやって精神的、神経学的に悪さすることはなく、難しいかもしれませんが、自然卒乳まで待ちたいと思います。
- ③ 赤ちゃんに授乳中ですが、職員の B 型肝炎の予防接種の案内がありました。接種を受けてもいいのでしょうか？ 受けたとしたら赤ちゃんには影響ができませんか？
- ④ 母体の状態に問題なければ予防接種は受けてかまわないと思います。これまで、母が受けた予防接種が赤ちゃんに影響したという報告はありません。

(回答者 工藤 充哉)

「こんなこともきいてみたい」「こんな時どうすればいいの？」等の疑問がありましたら、どんどんお寄せください。本コーナーでできる限り取り上げたいと思っています。

事務局：石川まで（グループウェア内メール、用紙記入にて、または [ishijimu@h-osaki.jp](mailto:ishijimu@h-osaki.jp) までお寄せください。

編集後記

チーム構成員の薬剤師お二人の御協力で、母乳育児支援通信 Vol.3 の「もっと知りたい母乳のパワー！」に引き続き、Vol.4 は「くすりと授乳」を中心に掲載させていただきました。

これからも、母乳育児の基礎知識や役に立つ情報等を皆様に紹介してまいりたいと思っています。

御質問等ございましたら、事務局までグループウェアメールまたは用紙にてお寄せください。

次回、Vol.5 は来年 2 月に本院 5F 小児科病棟のチーム構成員が担当し発行する予定であります。

では、次号の紙面でお会いできますのを楽しみに・・・。  
(事務局 石川 恵美子)

Information

♥ 6 月 28 日(金)、仙台市立病院 UNICEF・WHO「赤ちゃんにやさしい病院」認定記念講演会に本院 3F 産婦人科病棟・本院 5F 小児科病棟・産婦人科外来看護師、事務職員計 15 名が参加し、認定を目指し邁進することを心に誓いました。

♥ 7 月 10 日(水)、当チームが主催する「母乳育児支援をすすめるための研修会～母乳育児を支える社会的背景因子を考える～」が、宮城県大崎保健所長 大内みやこ先生、母子・障害第一班保健師 近藤麻衣子先生をお迎えし開催いたしました。68 名のご参加頂きました皆様（医師会関係 5 名、当院診療部 14 名、看護部 35 名、当院医療技術部門 10 名、事務局 4 名）、有難うございました！  
→資料が手元にごございますので御請求ください！

♥ 10 月 19 日(土) 13:30～16:30、「NPO 法人みやぎ母乳育児をすすめる会 設立 20 周年記念フォーラム」(仙台市医師会館・2 階大ホール(仙台市若林区舟丁))が開催されます(参加費:500 円(資料代))。講演 1「母乳育児をすすめる会 20 年のあゆみ」、講演 2「別世界から見た、母乳育児支援」。→お知らせ・回覧板に掲載予定。

♥ 秋に母乳育児支援を進めるチーム主催のワークショップを予定しております。日程・内容等が決まり次第お知らせいたします。御参加のほどお願い申し上げます。

この「information」コーナーでは、母乳育児に関するセミナーやシンポジウム等の開催情報等を適時御連絡いたします。

☆大崎市民病院母乳育児支援を進めるチーム☆

- チーフ 工藤 充哉 (第一小児科科長)
- チーム員 豊田 文爾 (第一歯科口腔外科科長)
- // 星合 哲郎 (第二産婦人科科長)
- // 鳴海 僚彦 (第一小児科副科長)
- // 村上 紀代恵 (本院 3 階病棟看護師長)
- // 二瓶 育枝 (本院 5 階病棟看護師長)
- // 高橋 裕子 (本院 3 階病棟副看護師長)
- // 三浦 たつえ (本院 5 階病棟副看護師長)
- // 佐藤 恵 (本院 5 階病棟主任看護師)  
(新生児集中ケア認定看護師)
- // 荒井 美子 (本院外来主任助産師)
- // 佐藤 祥子 (本院 3 階病棟助産師)
- // 小原 みづえ (本院 3 階病棟助産師)
- // 澤田 優美 (本院 3 階病棟助産師)
- // 大鹿 美那子 (本院外来看護師)
- // 阿部 明子 (本院外来看護師)
- // 鈴木 さとみ (薬剤室薬剤師)
- // 尾形 知美 (薬剤室薬剤師)
- // 藤田 あい (栄養管理室管理栄養士)
- 事務局 寺島 孝敬 (診療支援係長)
- // 石川 恵美子 (診療支援係主査)

\*参加してみたいという職員の方、大歓迎です！  
資料の準備上、前日までに連絡をお願いします。  
皆様の御参加、御意見をお待ちしております！

次回の会議予定 平成 25 年 11 月 22 日(金)  
医療情報支援センター・会議室 2